



研究者名※	松井 貞子	学位※	学士(家政学)
所属※	食科学部 栄養学科	職名※	准教授
連絡先	smatsui@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0141321		
研究分野※	複合領域、生活科学、食生活学		
研究キーワード※	健康と食生活、食と栄養、食生活の評価		
共同研究・競争的資金等の研究課題	・糖尿病合併症リスク因子における大血管症と小血管症との関連性(共同研究) ・安定同位体を用いたコレステロール引き抜き能評価法の臨床的意義に関する研究(共同研究)		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴	第16回日本病態栄養学会年次学術集会 ポスター賞		

研究領域	複合領域、生活科学、食生活学	(SDGs)	 
研究テーマ※	糖尿病性腎臓病(Diabetes Kidney Disease)の進展に関与する代謝・栄養学的要因の検討		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 糖尿病合併症の予防および進展防止のためには、糖尿病発症早期からの良好な血糖・血圧・脂質のコントロールが有用であることが多くの大規模研究により証明されており、すべての糖尿病患者において、治療の基本となる食事療法の実践が必要不可欠である。しかし、糖尿病合併症の進展抑制に有効な食事療法に関するエビデンスは十分とは言えず、近年、増加の一途を辿っているDKD患者の透析導入件数を減少させるためには、糖尿病合併症の進行に影響する代謝・栄養学的要因について検討し、新たな食事療法のエビデンスを構築していくことが求められる。 そこで、現在は虚血性心疾患および冠動脈疾患の危険因子として知られているホモシステイン(Hcy)に焦点を当て、Hcy代謝に関わる亜鉛やビタミンB12に着目した観察研究を行っている。 【応用例、研究の展望】 ・亜鉛は膵β細胞内でのインスリンの形成に必要であり、酸化ストレスの除去にも関与している。動物実験では、亜鉛がインスリン抵抗性の改善などの膵外作用を有する可能性や、ビタミンB12が高Hcy血症および糖尿病合併症に関連することが報告されているが、DKD患者を対象とした検討は少ない。本研究によって得られた知見は、DKDに対する新たな食事療法の提言に寄与することが期待される。 ・現在進行中である実験的手法を用いたDKD患者のHDLの機能評価を通して、糖尿病血管合併症の減少に有用な食事・栄養因子を明らかにし、これを食事療法に応用することで、糖尿病患者の健康寿命の延伸に貢献したいと考えている。 【研究方法の特色】 ・安定同位体を用いたHDL機能評価(共同研究による)		
本研究関連特許・論文等	・Sadako Matsui, Yasuhisa Someya, Hiroshi Yoshida. Relations between urinary albumin excretion and a dietary intake of fruits in patients with type 2 diabetes. Journal of clinical medicine research; 13(3): 51-157, 2021. ・Sadako Matsui, Chika Hiraishi, Ryo Sato, Takai Kojima, Kiyotaka Ando, Kei Fujimoto, Hiroshi Yoshida. Associations of homocysteine with B vitamins and zinc in serum levels of patients with type 2 diabetes mellitus: A cross-sectional study. Journal of Nutritional Science and vitaminology. In press.		
共同研究・外部機関との連携への期待	食事調査の実施と解析を行い、急性期病院での栄養管理業務経験を活かした専門的な栄養食事指導の提供が可能です。		